

4 マップが完成したら家族で話し合おう!

どんなときに、どの道を通ればいいのか、そのときに
どんなことに注意すればいいのか、地図を見ながら話し合しましょう。



「入りやすい」「見えにくい」
場所がわかったら、
どうしたらいい?

- できれば行かない
- 行くなればかかと一緒に行く
- そういう場所では
気を緩めない

おうちの方へ

- 地域安全マップは「モノ作り」ではありません。
地域安全マップ作りを通して、危険な場所を見分ける力を身につける
ことが目的です。地図を詳細に書く必要はありません。
- 大人が先に立って危険な場所を教えるのではなく、子どもが気づくのを
待ちましょう。
通り過ぎそうな時には「ここは入りやすい? 見えにくい?」と聞いて考え
させましょう。
子どもたちが安全に行動できるようにサポートしてください。
- 人通りがある道でも、人がいなくなる時があります。その場所が、
「入りやすさはどうか」「見えにくさはどうか」で判断してください。
- 「入りやすい」「見えにくい」というキーワードを教えたら、「入りやすい」「見えにくい」ところには行かない、
どうしても行かなければならない時は、誰かと一緒に行く。危険な場所では知っている人でも100%は信用
しないことを教えてください。
- 本当に危険な時は、こども110番の家に限らず、お店、家などに逃げ込んでも良いことを教えてあげて
ください。



防犯ブザーとホイッスル
「危険な場所では警戒レベルを最高に。
ホイッスルはいつでも吹けるように。」

写真・イラスト/横矢真理

「安全・安心の街に」YOC 読売センターは地域の防犯活動を推進しています

<p>こども110番</p> <p>YOCは「こども110番の店」 として活動しています</p>	<p>不審者注意</p> <p>配達・集金の際、 不審者に注意します</p>	<p>防犯情報発信</p> <p>警察署の協力を得て 防犯チラシ等を配布します</p>	<p>見守り活動</p> <p>配達・集金とは別に 町内を見守ります</p>	<p>学校や地域でのセーフティ教室 開催のお手伝い</p>
--	--	---	--	-----------------------------------

あなたの街の読売センターからお届けしています

読売KODOMO新聞

- 毎週木曜日発行
- タブloid判 / 20ページ / オールカラー
- 特別協力 / 小学館
- 協力 / 四谷大塚

詳しくはホームページで >>> 読売KODOMO新聞 >>> 検索 🔍



発行 / 全国読売防犯協会
〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
読売新聞東京本社販売局 販売企画調査部内
TEL.03-3216-9024
1911/2293M



..... 家庭で学ぶ

地域安全マップ

Part2



発行 / 全国読売防犯協会 協力 / 警察庁、警視庁、立正大学教授(犯罪学)小宮信夫、
NPO法人地域安全マップ協会、子どもの危険回避研究所 後援 / 日本PTA全国協議会

子どもを犯罪から守るために!

はじめに
おうちの方へ

子どもを犯罪から守るためにはどうすればよいでしょうか。
一番のポイントは、子ども自身が犯罪の起こりそうな場所を知り、
そこに近づかないようにすることです。
地域安全マップ(地図)作りを通じ、危険な場所等を判断するために
景色解読力を高め、事前に危険を回避する能力を身につけることが大切です。
親子で一緒に通学路を歩き、危険な場所や安全な場所をチェックし、地域安全マップを作りましょう。
その上で、発見したことや感じたことを家族で話し合うなどして、子どもたちの被害防止能力を向上させ
てください。



(*これは典型的な地域安全マップのイメージです。説明は、次のページからお読みください)

1 [マップを書く前に] 危ない場所がどんな場所か考えよう!

悪いことをしようとする者は、自分が捕まりそうにない場所をさがして、近づいてきます。ということは、そういう危ない場所に近づかなければ、被害にはあいにくいということです。危ない場所は、だれもが「入りやすい場所」と、だれからも「見えにくい場所」です。

入りやすい+見えにくい=危ない場所 次のような場所は注意が必要なところです。



- 男女同じ入り口のトイレ
- 建物の間の路地
- 駅前など、人がたくさんいても、まわりをあまり見ていない場所など

2 自分のまちを探検してみよう!

「入りやすい」「見えにくい」のキーワードに当てはまる場所を探しながら、まちを探検します。車に気をつけて、おうちの人とでかけましょう。お友だちもさそえるといいですね。

【用意するもの】 持ち運び用の小さい地域の地図(コピー)をクリップボードなどにはさんだもの。メモをとったり、地図にしるしをつけるための、えんぴつや赤ペンとメモ帳。カメラ(探検後すぐに撮った写真を、印刷できるもの)。飲み物など

- 【1】キーワードに当てはまる危険な場所や、「入りにくく見えやすい」安全な場所を見つけたら、写真を撮ります。(※人の顔や表札、車のナンバーなどは写らないように)
- 【2】写真を撮ったところを、地図にしるしをつけて、どういところかメモしておきます。
- 【3】できれば、地域の人にインタビューをしてみましょう。犯罪にあいそうな場所を教えてもらい、そこを見に行けるといいですね。お礼も忘れずに!



3 マップを作ってみよう! (地図書き)

- 【用意するもの】
紙……………画用紙や模造紙などの大きめの紙、かざりつけの色紙
文具類……………えんぴつ、ペン(色えんぴつ、カラーペン)、はさみ、のり
(※机や床が汚れないように、下に新聞紙などをしきましょう)
写真……………さっき撮ってきた写真を印刷したもの



- 【作り方1】 歩いた道やまわりの道を、模造紙に大きく書きます。
【作り方2】 写真に「危険な理由」「安全な理由」を書いたコメントをそえて、マップに貼りつけましょう。コメントを書く紙は、色紙などを好きな形に切って、楽しく作りましょう。
【作り方3】 イラストを書いたり、色紙などを使って、かざりつけをしましょう。(※注意点: 建物、お店、住んでいる人の名前などは書かないようにしましょう。もし写真に写ってしまったら、そこだけ黒いペンで消してください)

コメントの書き方

コメントは、キーワードと、その理由を書くことが大切です。年齢によって、書き方を工夫してみてください。例をいくつかあげておきます。参考にしてください。



- 建物の間の路地/ビル間の小さい道は、だれでも通れる「入りやすい」場所だけど、まわりをかべに囲まれていて「見えにくい」ので危険。
- 道路脇の防犯ポスター/色あせて、はがれかけているし、落書きもされている。管理が行き届いていない「見えにくい」場所だから危険。
- 駅前の人ごみ/人がたくさんいても、まわりのことをあまり見ていない「見えにくい」場所なので危険。(不特定多数の人が出入りし、まわりに無関心になりやすい場所)。
- 道路の花壇/花もきれいに世話しているし、ゴミも落ちていないので、人の視線が行き届いている「見えやすい」場所。道にはガードレールもあるので「入りにくい」から、安全。